

体育祭を終えて

校長 荻原 隆行

開校以来続けてきた「運動会」と「文化祭」はどちらも伝統ある2大行事ですが、生徒数・学級数の減少に伴い、実態やねらいに合わせて内容が変更されてきました。そのため、今年度よりそれぞれ名称を「体育祭」と「合唱祭」に変更いたします。また、春と秋の行事を「・祭」で統一し、南大沢中の新たな特色として打ち出していくことも名称変更の目的の一つです。

「体育祭」にした理由としては、中学校では生徒自身の自発的な活動が多くあり、運営も生徒が大部分を担うので、小学校の「運動会」から一歩進化したイメージの名称にしたかったことや、体育の授業の延長線であり、先輩が後輩をリードする縦割り活動を通して、一人ひとりの心と体が育成されていくイメージは「体育祭」の方がぴったりくると考えたからです。

秋の「文化祭」はかつて合唱以外に部活動の出し物などもあり、幅広い発表の場であったときの名称です。現在は生徒数・学級数が減少し合唱以外の発表が難しくなってきたこともあり、合唱に特化した発表会となっている実態から、名称を「合唱祭」に変更し、合唱の完成度を学校全体で高めることをねらいとしました。

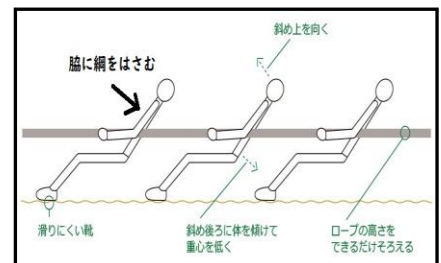
さて、第42回「体育祭」についてお話したいと思います。今年の体育祭は毎週のように起きる天候悪化に悩まされながら工夫して練習を重ね、本番当日は絶好のお天気で実施することができました。

運動会スローガンは、「挑武(いどむ)～Let's try it～」。昨年同様全校生徒を青団と赤団の2つの縦割形式で組織し実施しました。今年も3年生は凄かった！！まさに、リーダーとして挑んだ1ヵ月半だったと思います。4月半ばから3年生の応援団員がダンスの振り付けを考え、それを下級生の応援団員に教え込み、教えられた応援団員は自分のクラスでまた教える。ダンスは格好良いものにしたいし、でも初級者でも踊れる程度にしないとイケない。また、どんな隊形でどう移動するかも重要なポイントです。中々難しい課題でしたが、両団ともにしっかり応え、素晴らしい出来栄のダンスが披露されました。昨年度の3年生も立派でしたが、今年の3年生たちも競技、応援、入退場、係活動などすべてにおいて学校のリーダー学年にふさわしい姿を見せてくれたと思います。昨年度の学校だより6月号で、『3年生の勇姿は後輩たちの目にしっかり焼き付いたはず。40年続いてきた南大沢中学校の伝統は今後も確実に引き継がれていくことを信じてやみません。』と結びました。そして、今年体育祭後に書いた1、2年生の作文や感想を見てみると、「3年生は凄かった」「かっこよかった」「3年生のようになりたい」というものが多くあり、まさに本校の伝統がまたしっかり引き継がれたと確信しました。

最後にまだ少々余白があるので、生徒に綱引きのコツについて今度教えると言ったままだったので、体育祭は終わりましたが、ここに書かせていただきます。来年のヒントにしてください。

私が伊豆大島に赴任していたころ、島民運動会に綱引きがあり、選手として出場しました。10人对10人の綱引きですが、本格的な綱引きで、夜間に集まって練習もしました。練習では大木に綱を巻き付け、5分間、10分間と引き続けます。もちろん大木はびくともしませんからひたすら引き続けます。引くときは腕力で引くと1分ほどで力尽きます。

脇に綱をはさみ体重をしっかり掛けて引くと良いと教わりました。ちょっと脇が痛くなりますが、手だけでぐいぐい引くより長い間力を出して引くことができます。ようするに自分の体重(重力)を使って綱を引くわけです。(右図)このようにそれぞれの競技にはちょっとしたコツがあるので、次年度、生徒の皆さんもタブレット端末を使って、「台風の目」「二人三脚」「縦割りリレー(全員リレー)」等について調べてみるといいかもしれません。



学校の様子



英語体験学習 TGG 立川（2年）



引き渡し訓練



新 SC 野中さんの生徒への紹介



体育祭①



体育祭②



体育祭③

不登校をテーマとした保護者サロンと説明会の開催について

教育委員会では、不登校の子どもたちを支援するために、保護者対象の講演会と、「高尾山学園」の指導内容やスタッフ、申込みのシステム等の「説明会」を開催致します。「保護者サロン」では講演会の中で小グループに分かれ、参加者の皆さん同士で日頃感じている思いや悩みを語り合う時間を予定しています。

	保護者サロン	不登校の子どもたちを支援する学校等の説明会
1.対象	市内在住で小・中学生の保護者	市内在住で小・中学生の保護者
2.日時	6月26日（水） 午後2時から午後4時30分	7月5日（金） 午後6時から午後7時30分
3.会場	教育センター 大会議室	八王子市立高尾山学園
4.内容	・講演『「不登校」は子どもたちからのSOS!?!』 ～「受容」という視点から～ 講師：教育指導課心理相談員	・高尾山学園・適応指導教室「やまゆり」概要説明 ・高尾山学園施設見学 ・施設の利用に関する相談 ※ 施設見学と利用に関する相談は希望者のみ
5.定員	60名(先着順)	定員なし

申込み・問い合わせは、ともに

高尾山学園内 教育指導課登校支援担当（電話：663-3216）へお電話で
6月3日(月)8時30分から受付を開始します。